

あなたが見ているもの
ルカ 21:5-19

2016年11月13日
Pr. Brad Stienstra

なんと悪いタイミングなのでしょう。この移行期に仕える牧師がはじめて説教をする大切な時に与えられた福音書箇所では、ヘロデの豪華な神殿の前でイエスが次のような言葉を宣言するのです。「これらの石がひとつ残らず瓦礫の山になる時が来ている。」エルサレムの誰もがそんなひどい知らせを知りたいとは思わなかったでしょう。そして、長く対立関係にあった選挙運動が繰り広げられた後、しかも、22年間奉仕した愛する牧師が去ってまだ悲しみの残る中で、イエスから、すべてが崩れてしまうなどという言葉は、みなさんが聴きたい言葉ではないと想像します。当時の状況の中で、聴衆は天の上では穴が開き始めて、天が崩れてくるんだなんて考えたくもなかったでしょう。聴衆は、主イエスから、その悪夢が現実のものとなりそうな話を聴きたくなかったでしょう。今日私たちが置かれた状況の中で、石がひとつ残らず崩れてしまうなどという気味の悪くなるような喜ばしくない話は、私たちを意気消沈させてしまいます。私はもっとほかの良い言葉を語りたと思ってても、福音書の言葉は、今日神が私たちに与えてくださった言葉なのです。今のむずかしい変化の時に、神が私たちを置いている教会の現実とは、私たちの信念や希望に試練を伴っているのです。

長期にわたる安定した関係から、我々が信頼できる制度、それは華麗であり壮大な建物、薄い金色の大きな石灰岩で出来ていて、だれが見ても永遠に存続するであろうと思えるようなものが、逆に今にでも災害が起こってその存在が危ぶまれるとなると、急に私たちの核となっている心を揺るがします。人類が造り上げたもっとも感銘を

与えるようなもの、たとえば民主主義だとか教会の家族などでも、急に称賛されることがなくなってしまい、それを不変のごとくに存続させようという気すら失せてしまい、崩れていくのをそのままにしてしまうのです。それゆえ、人間が信頼していたものが瓦礫の山になってしまうということをイエスが示唆しようものなら、われわれ自身も自分たちの存在自体をすぐに心配しはじめてしまい、いったいイエスが話す崩壊がいつおこるのかを模索しはじめるのです。私たちは膨れ上がる心配に襲われるようなことは退けて、世界の中で、また地域社会の中で、なすべき使命を続けるべきなのでしょう。

私には、移行期の始まりにあって、ちょっと恐ろしくなるような聖書の言葉に沿って、うまく対処できるようになれる道に私たちを導いてくれる何かがあると思っています。イエスによれば、あなたがじっと見ているところ、見とれてしまっているものに、すべての意味があるのです。私がかつて学んだ神学校の校長は、彼の礼拝説教を後に出版し、こんなことを書いています。「春の嵐や雷には、希望の兆候がある。」つまり、電気の走る怖い嵐の危険なことばかりに注視してしまうなら、その嵐によって豊かな大地に運びこまれて芽を出して育っていく、いろいろな種のことを認識できなくなってしまうこととなります。主イエスは、イエス自身が何をご覧になっているか、まただれを仰いでいるか、あなた方にわかって欲しいと思っています、なぜなら、あなた方の目が一時的なものでいずれはそれが崩れ去るものに留まってしまえば、たとえ私たちの置かれているごたごたの状況であろうが、永遠に存在しているものを観察することができなくなってしまうからです。もしもあなたが現在見ているものが、損害をおよぼし破壊的なも

のに占領されてしまっているなら、確かで、建設的で、また激励してくれるような部分を見ていないかもしれないのです。ですから、どうしようもないような状況に見えるなかでも、その中に存在してくださり驚くべきことを成すことができる神に感謝することができなくなってしまいます。あなたがたが、あきらかに壮大で華麗でしかも声の大きな者たちに、目をくらまされてしまうなら、最初は言葉もせず、魅力もなく、気味が悪くなってさえしまうようなものの中に秘められた美しさ、真の価値を認められなくなってしまいます。

ですから、イエスは最初の言葉ではみなさんにハッとさせてから、おわかりかと思いますが、ハンティントンビーチの復活ルーテル教会できょろきょろして、なんだが心配な気持ちになってしまっている皆さんに、主にどういうすばらしさがあるのかを尋ねているのです。みなさんはこの教会の造り上げてきて資産となっているものがだいじょうぶかを心配しているのでしょうか、それとも皆さんの間に存在している全能なる神がどこに存在して下さっているか、その兆候を見出すことにベストを尽くしているのでしょうか？ あなた方の過去から受け継いだ遺産をいかに保持するかに心を悩ませているのでしょうか、それとも天の羊飼いが将来あなたがたに進んでもらいたいと思う道がどこにあるのかを見分け、その道がリスクを伴うような道であったとしても、信仰に満ちてそのリスクを負う勇氣ある民になろうと祈っているのでしょうか？ しばしばまるで希望なんかないように見えてしまう世の中で、また神の支配に反抗しているような時代あろうが、力強く、罪をあがなう愛に満ちた神の活動が行なわれていることに気づき、絶望を突破するビジョンへと私たちは導かれているのです。

52年間の復活ルーテル教会の歴史の中で、皆さんは見事にキリストの使命を遂行するという名声を築いてこられました。そして人々に手をさしのべていくというしっかりした心遣いは羨ましがられるほどの特徴とも言えるでしょう。歴代の皆さんの牧師たちは、いつも皆さんに終わってしまうことのないイエスの憐れみと信仰深さゆえに、神の被造物が壊されようが神の愛が存在しつづけているという皆さん方の証言には、だれも逆らったり否定したりできないことを信じるようにいつも促してきました。ですので、みなさんはどうぞ、この移行期の中であって、また選挙が終わり不安定に見える世の中でも、皆さんの中に働かれる主の存在を見出そうとすることを決して止めてしまうことがないようにしてください。そして復活ルーテルの民のために、また復活ルーテルの民を通して、神が成してくださったこと、あるいは今も成し続けていることを、分かち合うことも止めないてください。今、たとえつなぎの牧師が仕えている間であろうが、神はここに存在しておられることを確信し、伝道の業をしっかりとつづけ、かつ神の国がここにあるという理由を明らかにするために、もっとも良い方法を精力的に計画しつづけてください。そして、私は皆さんとともにここにいて、すべてが展開していくことを見届ける機会を持てたことをたいへんうれしく思います。

アーメン